

## 第 18 回 WFD アジア太平洋代表者会議・第 1 回アジア手話通訳者会議に参加して

長崎 千佳恵（国際部・大阪支部）

2006 年 12 月 3 日から 5 日まで中国のマカオで開催された、第 18 回世界ろう連盟アジア太平洋地域事務局代表者会議に参加しました。今回はプログラムの中に、アジアで初めてとなる手話通訳者会議が組み込まれています。アジア地域の手話通訳者会議は、全通研が過去 2 年間 WFD アジア太平洋会議で各国のろう代表者に呼びかけていましたが、ついに実を結びました。

各国のろう代表者たちは、流暢な国際手話で自国の現状や課題を報告し、また意見や情報を交換しました。討議は活気に満ちていて、やり取りからはお互いへの敬意が感じられました。会議の中で、昨年の世界手話通訳者協会（WASLI）設立について市川委員長が報告され、WFD 理事長のマルク・ヨキネン氏が障害者権利条約について講演されました。ろう代表者たちは今後の自国の活動に役立てようと、盛んに意見や質問を交わしていました。



ヨキネン氏の講演



手話通訳者会議

並行会として行われた手話通訳者会議は、半日という短い時間でしたが、大変有意義でした。英語を母国語としない国が多いため、英語と国際手話や各国手話を取り混ぜて意思疎通を図り、何人も

の参加者が自ら進んで通訳をしました。ろう代表者同士よりも厚い言葉の壁を感じましたが、大変和やかなムードの中、会議が進められました。

通訳者会議では、各国が自国の手話通訳者組織や制度の状況を報告し、課題も多く出されました。政治的、経済的に厳しい状況の国や、社会的理解が不十分な国もあり、活動の困難さが分かりました。一方、制度が充実している国では、通訳者に大きな負担が掛かっている場合があると感じました。日本からは全通研と通訳士協会が参加しましたが、同じ問題を乗り越えてきた先輩国として、日本に対する期待や果たすべき役割の大きさを痛感しました。

今回の会議で、初めてアジア地域の手話通訳者同士が直接会い、情報交換や交流をする



通訳者会議報告

ことができました。今後の各国での活動に向けて、良いきっかけになったと思います。また、国内で大変な状況と向き合っている通訳者にとって、アジアの仲間がいることは大いに励みになるでしょう。日本も国内で課題をたくさん抱えてはいますが、全通研という大きな組織があるという特長を生かして、助言や支援ができれば素晴らしいと思います。

アジアには、今回通訳者が参加できなかった国や、まだ通訳者や通訳者組織が存在しない国も少なくありません。ろう者や手話通訳者を取り巻く環境の向上という共通の目標を持つ仲間が、今後ますます増えていくことが期待されます。